

開文
化明

内
外
事
略
初
編
中

71
3482
3



池清

3482
3

文明開化 内外事情卷之三

乗合車の事

初巻まで 死化の國々の自由自在ある大約を
述たり 現今ハ日本も次第に開化し赴き
ゆき 蒸氣車と馬車人力車等路傍に立て
客の来るを待つものは数多ありて 往古に比ぶ

東江學人 纂輯

昭和十三年
二月七日 購求

其自在あるあり云りしごとくあはれ猶横濱の人
よて東京一芝居見物に來り其日と歸るなり又
ハ軍談師の類よて東京と横濱の兩席をわけ持
てまゐる者もなりしありを以て世の開化に至る
と隨て自由自在ある一端を知るべし○西洋開
化の國々より車の種類も至て多く乗車なり運
車なり此車と大抵馬と挽くに牛を用ゆるあ
りあり平日食品あじを運販するも荷を運ぶるも

皆輿内と積置き馬を以て之を挽くあり賣人を
自御車とありて賣あざり行日本の車力肩
檐の類あり故に西洋の車力肩檐ハ皆馬に乗て
往くあり可あり○乗車も又數種の別あり
りて一二人を乗せざる飛車なり五六人を容る
るもはなり或ハ十人余を運ぶ車なり又二輪
のものはなり四輪車なり馬も一疋を用るなり二
疋或ハ四疋と挽くあり中産以上のものは

日本書紀 卷之三

ハ大抵乗車を所持するあれども又乗車数多と
 貯一人を載るを以て家業とせざるははり之
 ハ現今日本の人力車の如く十字街まゝハ人民
 の輻湊る繁昌の地に至て客の来るを待つあり
 車賃ハ大抵日本の半里に付て一朱位の割あり
 是ハ立よつろ相辨し御車馬に鞭てよむる
 ゆく甚だ迅速あり又嚴冬の時に至て車の下
 脚を暖むる湯を設けて車内を自ら温くあり

馬車人力車
 往来
 繁昌
 の番



もはりうと西洋人の安樂を極むるあり之を推
て知るに又孩車とて小箱と兩輪を設け此内
に孩児とのせ子守として推し行ひ故に侍
兒もても孩児を脊負ふが如きは甚ぶ少あり其
外蒸氣車等都合東西南北に走るもは更と絶る
間なく何時何所へ往くも自由自在あり信極
樂世思しつとつと尚便利自由ある事柄を次
論せん

○瓦斯燈の事

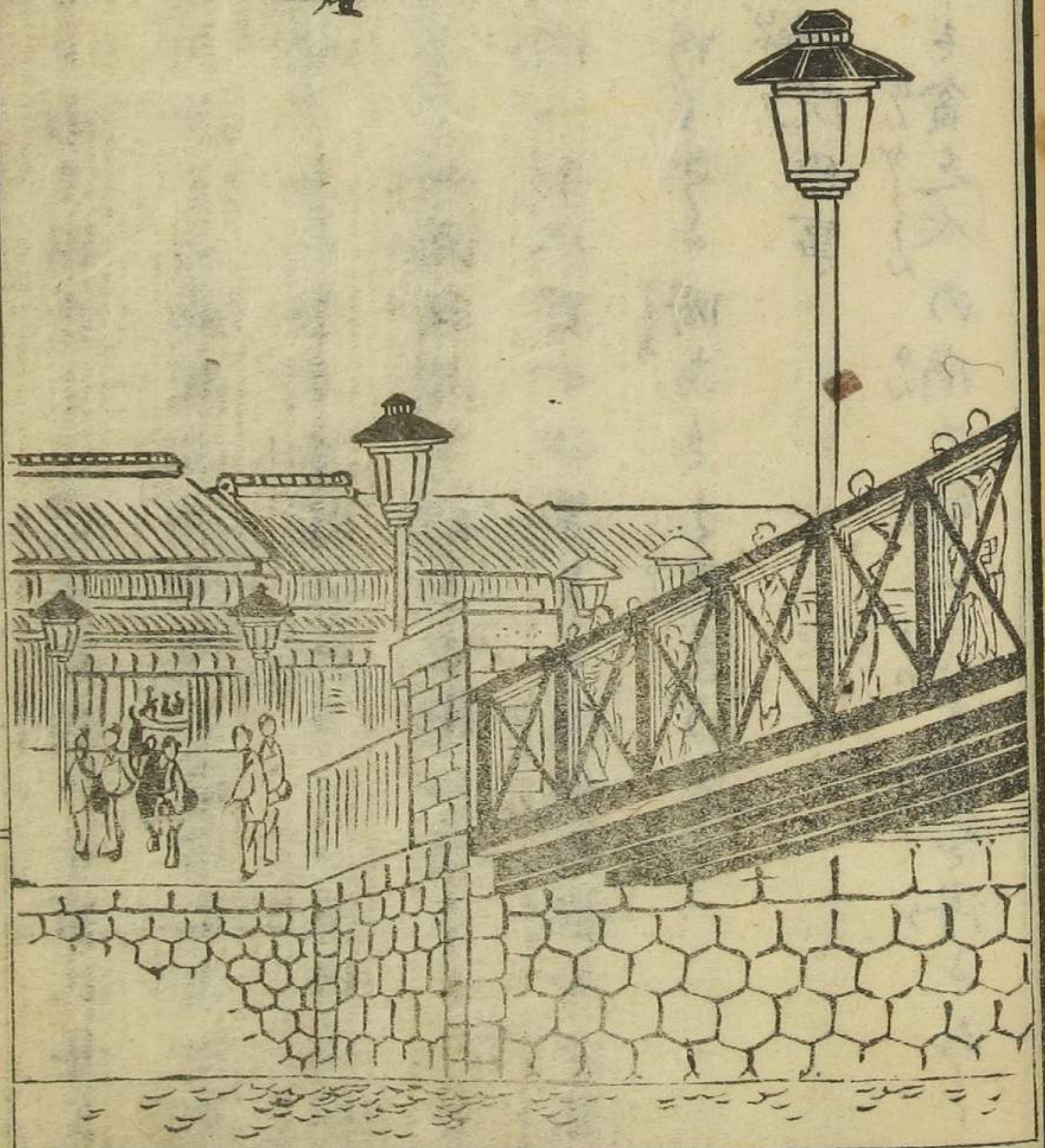
瓦斯燈は石炭と金の内へ入る氣の漏れざる
様にして之を蒸し焼くをせバ石炭の油と炭の
氣を發せ此氣ハ炭化水素瓦斯とつとりのして
之に火を點せ燃へ至て明きさなり日本
にて今般横濱にて高島屋とつとる者此瓦斯燈
を造り戸々街々を照し實に美事なりとつと西
洋諸國にてハ大抵此瓦斯燈を用ひ已むを得ざ

時を臘燭を用ひて油を用ゆるありハ極稀あり
 此瓦斯の仕掛の大略を大釜にて石炭を
 焼とありハ瓦斯を集め置是より地の下に鐵
 の管を埋め四方八方に導き又是より小枝を附
 けて全街の地中に彌蔓ハ瓦斯ハ此管中を曲折
 流通してついでに到らざる所あり是より
 又小管を附けて每家室内の便宜ある所導き
 此小管の先を螺口を設けありハ火を點きて燃

則ち夜燈あり又街道ありハ橋上等も半町許
 毎ハ瓦斯の常夜燈を設け往来を照らし行人の
 為且盜賊を防ぐ故に滿街耿々として夜中とい
 へども晝の如く故に西洋にて燭を携て夜行を
 する者ありハ〇瓦斯燈の最も盛あるハ英吉利を世
 界第一とす是英國ハ石炭を産するあり最も大
 ありハあり英國の都倫頓中に在る所の大鐵管
 の長さ凡日本に千里に及んで瓦斯燈の會社十八

けりしと皆此會社にて瓦斯を製し毎夜一燈を用
 ゆる者ハ何程して市中家々々賣るあり○夫瓦
 斯ハ風の如く流動するもはして其内と燃る質
 と備ゆるゆつ之を用ゆるも宜く心を用ひと
 れを大害を生ざるありけり若し誤て管の口を
 開き火を點せしむ時ハ瓦斯室内に流出し遂
 し瓦斯全室に満るしつゝも目に見へざるゆ
 へ誤て火を近くし直ちに一室火あり火災

瓦斯燈の番



と生なまきるあゝりつと○此瓦斯燈ハ千百三年よ
ウ井ンリルしつゝ獨逸人倫頓どいつじん来り瓦斯ワスと芝
居ゐし施やせりあれと瓦斯燈ワスチンの創つくめし其後同人
の工夫くわふしつゝ此瓦斯燈ワスチンを以て市街いちがいを照らし戸々
の燈あかり代かへ千八百十四年しつゝ倫頓どいつじんの都府中瓦
斯燈ワスチンの所ところあきし至いたりし

○病院の事

病院びやんしつゝ貧乏人ひんぱんじんの病びやうで醫いと招まねき藥くすりと得えるあ

能よハさる者と療治りやうぢする所あり西洋開化せいけの國くによ
しつゝ歡樂くわんらくと極たぎむる風習ふうじゆしつゝ皆富家みなぶかかゝりの様さま
し思おもひしつゝ決けつして左ひだりしつゝ富家ぶかもりしつゝ又
極貧窮ごくひんきゆうのもれもりしつゝ去さてしつゝ病院貧院等びやんひんいんとうの設た
けりつて之これを救すくふゆ路傍ろばうに餓死がしする如ごとき
憫然みんぜんのあゝあゝ日本にっぽんしつゝも現今いまハ御上ごじやうより厚あつ
くめせしつゝりつて病院びやんハ所ところ々々出来乞食こいじきの如ごとく
宿やどあしつゝ皆夫々生活かたかたせいごうを營いむしつゝ至いたれり古ふるく比ひぶ

れを實に難有ありあらずや西洋諸國の病院と
政府より建るも此の如く又富商豪家あど資金と
出して建るも此の如く又病院に入る者も極貧究
あまは全く藥料を出さざりとも少く家産あり
も此ハ夫々些少の醫療の費を拂ふ又病より
て各其病院の如く彼令ハ狂病院熱病院の如く此
病院の法も國々よりて異同あり今英吉利病
院の大略と述ぶ○倫頓中より病院の數甚に多

一其内尋常一般の平病院の數大小四十ヶ所余
りて病院貧院の總費を計ると一ヶ年三百四
五十万兩あり又侍病人と皆婦人として醫者
より之を侍病の法方を教へ病人を注意し侍病
に慢急ありしむ
此侍病人佛朗西よりて男
女の兩様ありて男ハ男の病人に屬し婦人ハ病
婦に屬し病者五人に侍病者一人の割あり○
倫頓より大病院の一番大ありも此より六百

五十の寝所有りて病人ハ一ケ年ニ六七千人病
院ニ入らざりて療治を受る者大抵七萬人位薬
の費用大約七八千兩ありと○又シントトーマ
スといふ病院ハトーマスといふ書賈より金
七十一萬五千兩程出シホントといふ富商よ
り凡三五萬七千兩を出して建たるものありて
毎年病者五万人より六万人を療治せしむ○
又學校ニ屬シ學生の患疾を療する病院あり○

又療病船といふものあり是ハ古き軍艦を以
て病院とありたるものありて船艦の輻湊する所
より外國より来る所の水夫の病たるものを療
治し救ふ所あれば外國水夫の毎年療治を受る
ものは二三千人乃至多く○以上いふ所は平病院
の大畧あれども其病症よりしていふ所の病院
あり左の如し

○狂病院の事

狂病院きやうびやういんとて發狂はつきやうしたる者ものを療治りやうぢする病院びやういんあり
 此病院こゝのびやういんもりりくはるるも一番宏壯いちばんこうそうありりけハ
 濶ひろく凡百七十間四方いっぺんひゃくしちまへなりて四百人の病者びやうものを容
 るる其建そのたてる時の費用しやうぎん九三十六七万兩くじゅうしちろくしちばんなりて
 毎まい年の入用いりよう七万兩しちばん余ありて此病院こゝのびやういんもてハ一人
 毎まい一室いっしつを與あたへ病症びやうしやうの輕かろきりけと室むろより出いし
 院内いんと出行しゆつぎし或ハ球たまごを投なるりけりり或ハ花はなを
 採とり或ハ歌舞かぶぶし或ハ繪ゑと畫かく等運動とううんどうし且歡樂かつらんらく

せしむ又狂氣きやうき甚しどりりけり別べつに密室みつしつを設たけ
 て此内こゝのうちにに置おき又發狂はつきやうしたる人を害がいせし者もののみを
 置おく所ところりり此狂人こゝのきやうにんハ其病平癒そのびやうへいじゆするも人を殺ころ
 し或ハ火ひと放はなて人家にんがやを燒やぶあはく大罪たいざいの者ものハ
 院内いんに一生いっしやうを終おりしむ総まて此病院こゝのびやういん内うちを甚しど
 清淨せいじやうしりり所ところ々々小鳥こてうを飼かひ金魚きんぎよを養やしひ鉢植はちち
 物ものを置おき樂器がくぎ筆墨ふでぼく等らを供ともに閑靜かんじやうを主しゆし人意にんい
 を樂たのしむ其療法そのりやうほう實じつに盡つせりりりり其外そのほか

勞瘵院 眼病院 脚疾院 種痘院 等數ありて暇あり
ば實に仁惠の至らざるありてつづる

○貧院の事

貧院にハ往古日本にて御救小屋といひしは
の類にして身体の不具あるは或ハ貧究にして
活計うくの無きものを入きて養ふ所あり其内
老院 幼院の別ありて老人ハ終身して養ひ幼
少のものは學術技藝を教へ活計の方法等を知

るに至て之を出せり又貧究極るものは暫く此
貧院に入るははり又貧窮人子を生みて養育
されば我稼ぐ妨あり活計に差支るものは晝
もつゝ其子と院に預けり夜も家と連連歸る
ればり○貧院の内にて棄子院といふものは
り此院方今英國あがしては父母のなき貧兒
ハ或ハ父母のなきも密通して子を生み之を表
向くものあり能とざる小兒のみを養ふあり是

創て建し〜とて棄子を養ひたり〜とて棄子の
 来るあり〜夥しく三年十月の間〜一万四千九百
 三十四人の棄子ありて何分養育の法行届うべ
 其内一万三百八十九児と死亡せし〜とて今
 如く法とてあれり〜去れども魯西亞の如く土
 地廣く〜とて人口少く〜とて今〜棄子あり
 て子と棄る時ハ棄子院の戶外〜子をり〜戶外
 へ鈴と鳴らし〜とて来きハ院より出て其子と

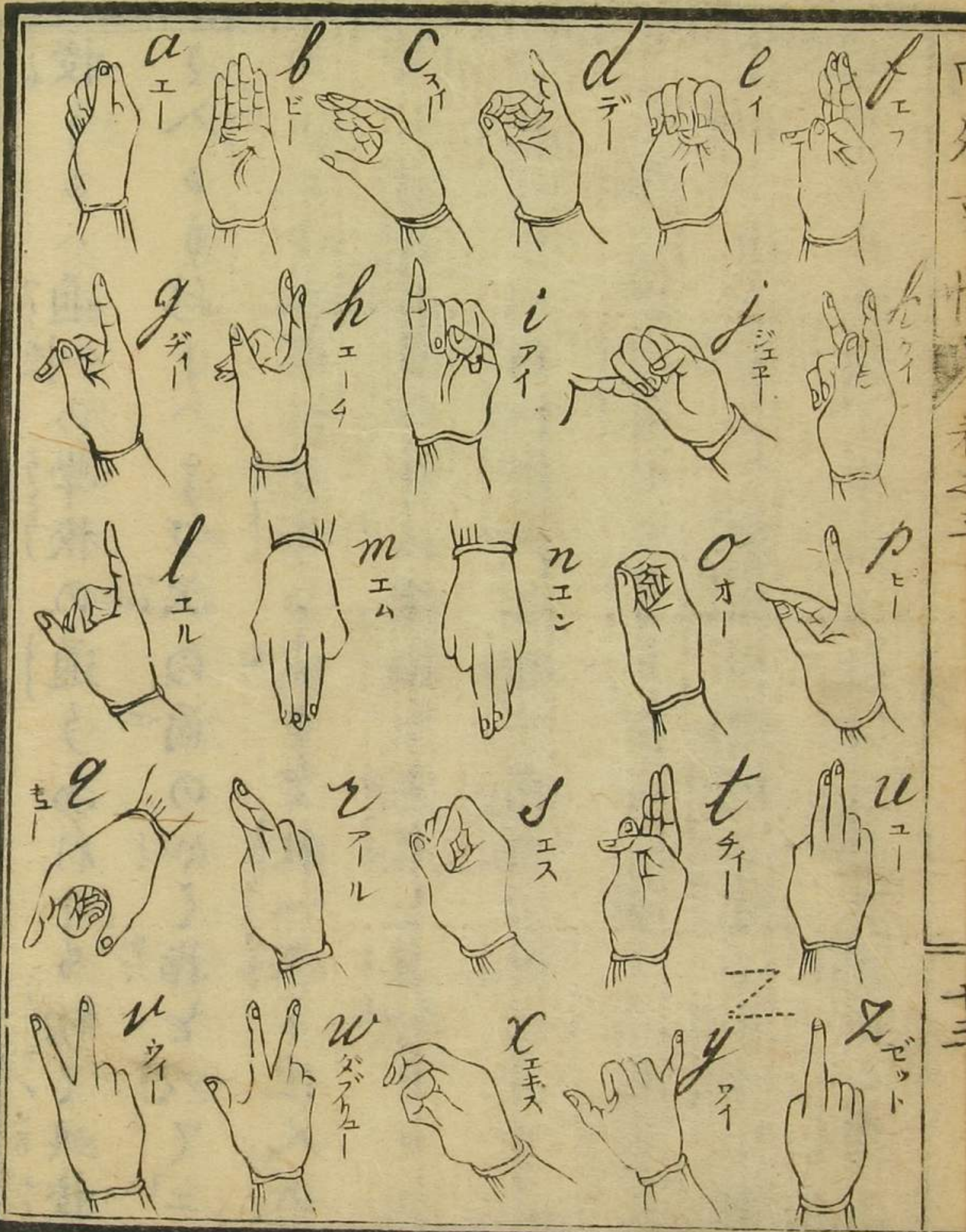
拾ひ衣服と與一乳母と附けて丁寧〜養育〜成
 長〜とて〜とて學術技藝を教〜活計の道
 と知り〜及んで之と出〜とて貧院ハ政府より金
 と出〜とて建るり〜又人々申合せ會社と組
 て建るものあり英國の首府倫敦〜とて貧院の數
 都合四十ヶ所あり大あるハ四五百人と置く
 と貧院の會社〜とて其仲間〜入り毎年若干の金
 と出〜とて約束するり〜とて又日本よ

て堂宮一寄附きるが如く何人よても貧院一寄
附きるの法り此院に入るれば其才力一應
ト莫大小と組むれば或る繩とあひ洗濯と
する等皆夫々の手業と為さしめ其内何分とを
院の公用とあそ

○啞院の事

啞院とて啞人を教ゆる學校あり此學校にて
只啞もつとを集め語學算術天文地理學等を教

授きるハ通例の學校の通りあれども初て此校
に入るればよきつ次の箇の如く指を以てエ
ト二十六字の記号と為きを教へ次々他人の
言ふ時其舌唇喉等の運動を見之を真似するあ
り是啞子ハ天性音声を發せ機器の具りざる
る非られ只耳のさうえざる由り人の言語
を聞之し効め唇舌の運動を覺へ五音を調
和するあし能ざるもれあし耳の聞ゆる者し



ても嬰兒の時と五音より漸々他人の物言
 んを耳にて聞き自然に舌の運動を覺つて遂に
 五音を分別するに至るも此を故に啞子ハ只
 他人の言語する時口の運動がうを真似し音声
 を發するありとを學ぶあり既に音声を發するあり
 とを覺ゆれば他人の言を耳に聞くあり能はば
 も其唇舌喉等の動機を見て其言葉を解し
 も談話するを得るに至るあり

○瞽院の事

瞽院こくわんとて瞽者こくしやと學術がくしゆ技藝ぎぎを教おしゆる學校がくこうあり此校こも大抵おほむね啞院おんわんとおな同おなトおなく盲人めくらんと讀書どくしよを教おしゆるハ厚紙あつぱと凸字あつがうじを壓印あつしんしたるものものを指ゆびの端はしとて摸もり讀よみ又また算術さんじゆも算木さんぼの如ごとき器械きかくなりて之これを動うごかし加減かへん乗除じやうじゆとて天文てんぶん測量そくりやうの難算なんざんと至いたるまで成ならざるものあり其外そのほか鞋かぢを造つくり布ぬいを織おり莫大小もくたうしやうと組みくみ音樂おんがくをあたす等らう皆みな夫々それぞれの工藝こうぎを

學まなび之これと恒とこの産うまゝ為なす瞽者こくしや啞子おんわとつともの更さらに廢人はいじんあり街途まちぢうと哀泣あひなきの聲こゑを聞きうべし實じつに仁にん政せい至いたれりといふは是こゝ一ひとと文字もんじの數かず少すくきももろく此啞院おんわん瞽院こくわん等の教おしへる殊ことに反復はんぷく丁寧ていねいとして倦うむと主しよとまゐるがゆゑに教師かぎしハ大抵おほむね女によありといふ○又佛蘭西ふらんし荷蘭おらん普魯士ぷろし等の國くに々々さまざま痴兒院ちゐんわんとて天稟てんれん智惠ちゑあり兒童こどもを教おしゆる學校がくこうなり此學校こを教おしゆる法はうハ殊ことに丁寧ていねいとして

書ハ皆大字を用ひ語を教ゆるも或ハ繪とか
らりゆひと品物を造り其傍に其語をつけ幾度
も之を讀て漸々解さしめ遂に讀書算術等を
為さす至る此外女子も歌舞を教へあづけて
廢人を全人となすといふ

○浄水管の事

西洋諸國の市中も日本の如く井戸又溝渠
のりるも甚だ稀くて大抵地の中に鐵管を埋め

日本の水道の如く浄水を送るもりり又汚水
を流出を管りり又瓦斯燈の管りり故に地下に
も一世界りりの如く扱浄水管ハ市街より數
里距り清水のりる所にあつて一の大池を造り
其傍に砂濾の仕掛を設け此所より鑿造の大管
を以て其清水を引り遂に市街に來る既に市中
に來ると無數の小管を以て數所にあつて市中
の戸々到らざる所あり戸々之を汲むにハ其小

管より又細き枝管を附け庖厨の傍に引き或ハ
庭中に引きて樹木に注出さるものあり又往来所
々々汲所を設け平日ハ蓋を為し置夏炎天の候
風塵を起す時之を開き仕掛して街道に灌
注す或ハ防火の用意とあり其水殊々浄潔
又便利極まりなり英國の倫頓にては毎日
百六十万石余の水を供せ去るも尚不足あり
ると以て十五里余を距ちたるヘルトホルドと

所より水を引くの企を起し千六百十三
年に至りて落成し其入用百五十万兩あり

○汚水管の事

汚水糞掃溜等の臭氣ハ人身の健康に害を為さ
り此を免むに勉めて家辺を清潔にす故に西
洋に溝渠の如き腐水の在る所なく汚水管に
て直径一尺を以ての鉄管無数を地中に造り全
街に折曲り漸く導て海に到らし此大管より

庖厨の傍に枝管を導き洗水の流出の所と設け
其管口に鐵の網を置き以て汚水のみ流れて去て
塵埃の流を込むを防ぐ又人の糞も雪隠より糞
水流きて此汚水道に入るあり但し雪隠ハ一度
毎に水を灌く装置ありて實に清潔あり此水
道ハ深く地の下に在るゆへに人々汚氣に觸る
おとなく且急流あるを以て留滞するおとなく
夏といつども蚤蚊の憂あり然るに十年前毎

ハ此管を修補するに○往古倫頓に在る汚水管
をテムズスといふ河一流を出せしは大都會の
全街より流出を以て其高もあつて多く河岸
に住居の人々或ハ河上を往来する舟人等其汚
氣の爲に害を受る者多し依て千八百六十四年
今の法の如く改正し安樂に至るまで其法ハ
倫頓市中のテムズス河に流し出さるるを廢止
め之を海に流し出さる工夫あり其入費凡九百万

兩ありし○西洋より日本の如く路傍に小便桶
 の所をわきあき市中所々尿舎の壁にけり
 ひと板をして一人毎に區別し各々別々に尿せし
 む此舎の上に浄水管を導き毎に水を滴流せ
 ゆく小便ハ其水と共に流を去り遂に海に到り
 人々尿臭に觸るあらあら○又貧民傭役とあり
 毎に車を引き市中を掃除して歩くおれり
 又食監として時々魚市肉店等に往き食料を吟味

する後人の是等ハ皆人命と重んじる所あり
 日本も方今ハ路傍に尿舎を造り溝渠とし
 して市中を掃除する者のりりて市街を潔清して
 實に開化の至るを見る

○造幣庫の事

西洋諸國も大抵楮幣を用ひざるハあり其
 價もりりりり又此役所にて貨幣を造出し
 金銀と出納する等のありと司るあり其造幣の

ハ皆器械を用ゐるより其精巧より其捷速ある
 あり思慮し及ばざるが如し此役所より固よ
 り楮幣引替がけの現金を備へ置ぐも理あれど
 もあり一法ありて更し差支あり其法ハ此役
 所より所々預所を設て諸民の金を預りあ
 り故に諸民貨を殖さんとする者ハ皆此庫に預
 け官府より受寄券を受取り通例三四分の利
 且を下さるあり尤入用の時ハ如何程ありとも

其入用がけの金高と受取りあり勝手次第あり
 仮令バ金千兩を預け一兩の金券千枚を受取り
 置と如し其内十兩入用ありと金券十枚と納め
 て十金と受取り故に富商豪家より自ら
 して土蔵と造り蓄財するあり故に盗難火
 災の憂あり且利足と得るを以て至極便利あり
 又貧民より其日高ひ或ハ出稼のり此杯末と
 考ひ少くも金と蓄んとされども家々置けバ

火災盗難の憂あり又他人に預け無盡く加ふるも
奸者の為り欺うれて百日の心苦も一朝の煙と
あるありあり回て之等の為り一錢一朱より預
る所を設け利足も多分よ興へ貧民として蓄財
の手段を為しむは是は實より善法あり何平我
日本にして此法を御設けりりたる事あり人々
の心も病氣災堆等不意の入用も何れも其
まぶ壯健の時少々づきの金を貯へ置たり人

の常あり去せども今上よ云ふごとく其日稼の
者にて一時に他人に預ける程の金を得づる所
謂もあけきり僅一朱二朱の余分ありも遂無
益に費したる災難に遇ひ一錢の工面も出来
ず或ハ家を失ひ身を亡し或ハ罪科に陥るもの
も少ありしに亦憫然の至りありきや

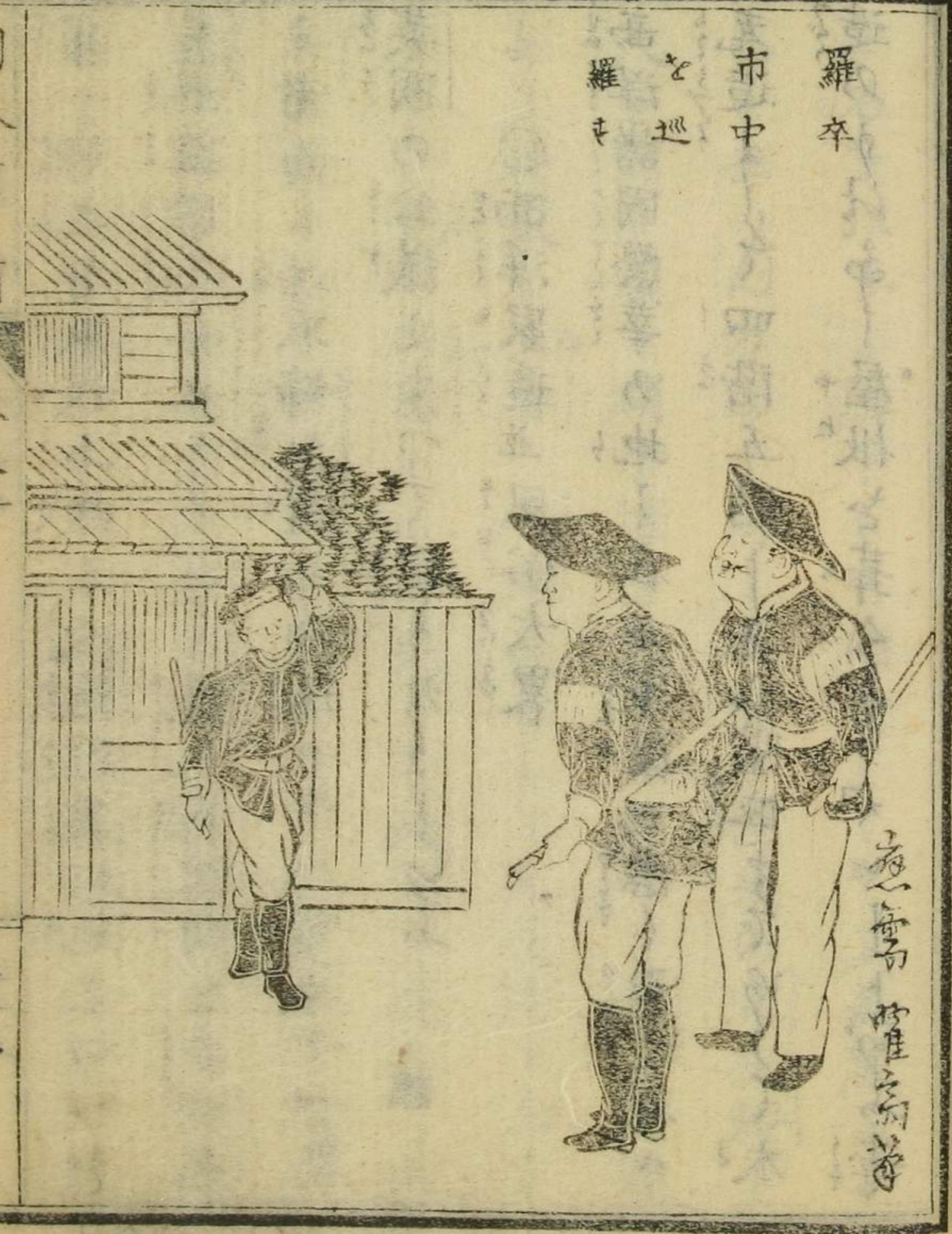
○市中取締の事

西洋諸國の都會ありし人民輻湊の地より取締

人と置き晝夜怠らば巡邏して市街の非常と警
 め行人の不法法を正し少くも變異ありて
 直ち之を取押さる故に市街せつとて
 塵埃を捨置り車馬道と妨げ酔人暴客の人を侵
 る等のありあ日本も方今ハ此法御採行
 の相成邏卒番人等皆夫々持場所りて晝夜嚴
 重に巡邏するゆへ更に盜賊乱妨人のゆるむと聞
 らぬ又迷子を教導する等總て市中に生るる變

意高の唯高の等

羅卒
 市中
 を巡
 羅



内
 外
 事
 情
 卷
 三
 三
 一

事ハ皆之を取扱ふ故に人民群集の地とつくと
も混雜騒乱を起さるるありて萬人其便利を喜ばざ
る者あり此取締を置くの法ハ千八百二十一年
英國の公議よりつて定りたりとあり

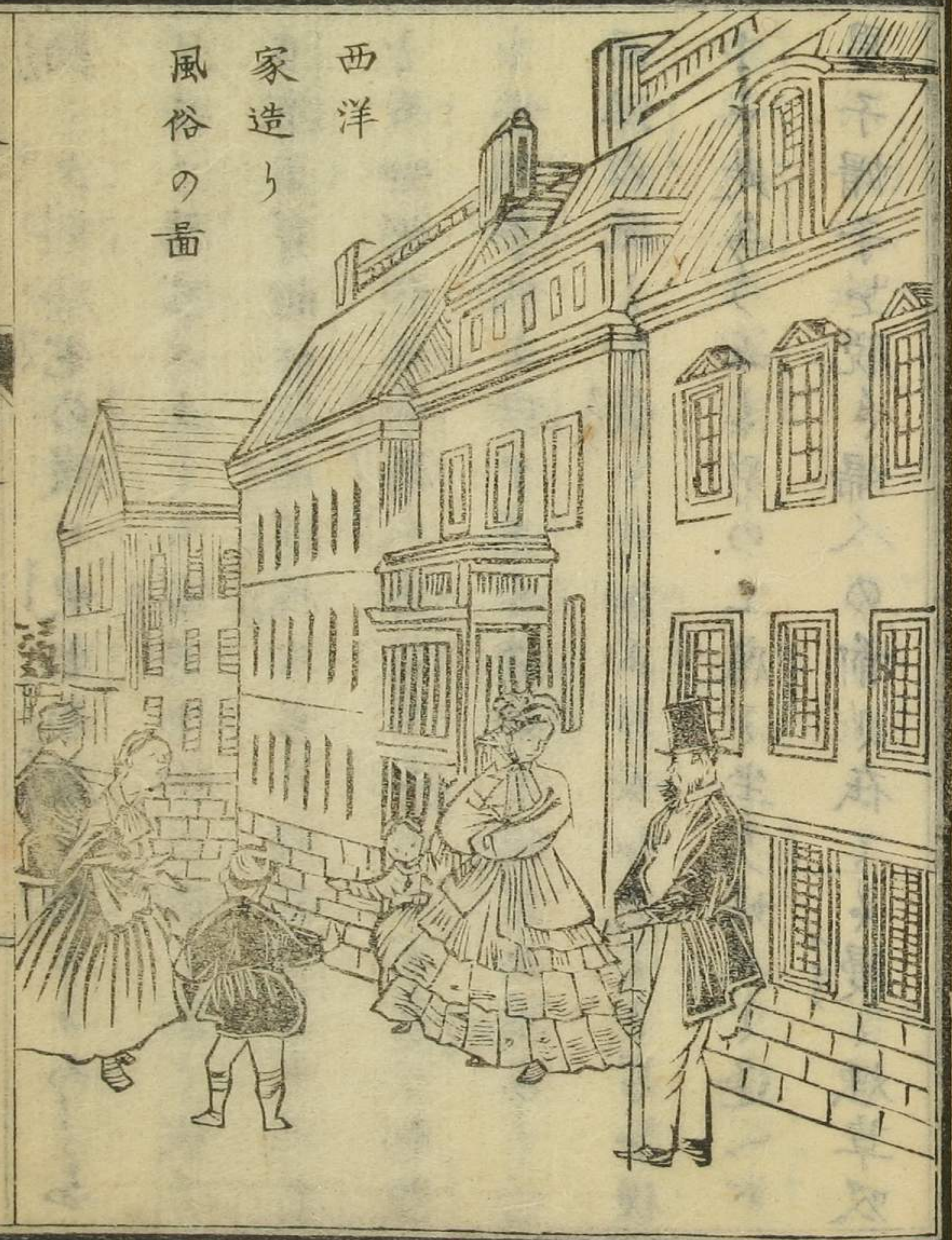
○西洋家造並風俗大畧

西洋諸國繁華の地に在る家屋ハ悉く石造或ハ
瓦造よりして四階五階より八階位までありて木
造のものはあり屋根を葺くはスレートトシ薄

き石を以て障子を皆硝子よりして其美麗ある
ありて云々の方あり殊に夜間ハ往來の常夜燈に
火を點一家々硝子燈を飾るにゆく最も美觀
あり此家も往昔ハ木造ありしが火災度々ある
よりて竟に此風とありて此家と建するも
石を切るるも皆蒸氣器械を以てするゆへ殊に
速うありて如斯く連軒石造の家ありても倫頓
ありて大都會として諸民輻湊雜留の所あるゆ

月外事時
卷之三
三十一

一火災甚ど多く今より十年をうり前火災の一
 番多うり一年より一年より十百八十度余り故
 り火消人足もあらず又ポンプもあらず龍吐水あり
 又五階六階の上へ掛る鐵の梯子ありて巧く荷
 と出し又火を防ぐとつゝ○西洋の風よて中等
 以上の商賈も皆都下より去り本宅を構へ園庭
 築山等閑静の趣向を備へ繁華の市中より出店
 と置き日々蒸氣車又も飛脚車に乗て其處より出



西洋
 家造り
 風俗の畵

勤^シ夕刻^ツ帰宅^ルの後^ニ更^ニ商業^ヲ勉^メめる^ルも
若^ク用事^ハも本宅^ニ扱^ルる^ルも故^ニ
日本^ニ寄留^セる西洋人^も多く此風^トあり去^リ
ども如何程^ノ大商人^トても皆自^ラ家業^ニ勉強^ス
一番頭手代^ト任せ置く^ル如^ク懶怠^ノ風^{あり}○
西洋の風^{として}最も奇^{アリ}ハ女^ト先^ニ男^ト後^ニ
是^{あり}女^ト男^ノ上席^ト坐^リ婦人^ト逢^ハバ
男子帽子^ヲ脱^キ婦人^ノ前^ニ在^リ漫^ク煙草^ヲ吸^ク

少^シバ女客^起つ^ルも男客^起た^ルも得^ズ
中等以上^ノ家産^ハ主人^ト外^ニ家業^ニ
勉勵^スる^ルも婦人^ト少^シも家事^ノ關係^{アリ}
せ^バ只樂^ミの爲^ニ縫物^ヲ樂^ムを爲^スのみ更^ニ
課業^{あり}男子妻^ト迎^ムる^ル爲^ニ大^ニ貨財^ヲ費^ス
家産^ト傾^キけ^ルる^ル○西洋^ト同^シ
室^ニ大勢^ニ寝^ルる^ルも大抵^一人^毎寢室^ト別^ル
よ^ク其室^ニ皆錠鎖^ヲ備^ヘ一室^ニ入^リて^も皆内^上

月外... 三三... 二五

り錠をとりて 毎朝起きバヤグ室内にて手盥ひ
 修容して後に出づ又孩児を抱て臥せあへく
 籠の如き寝器ありて之に臥さしめ昼間も抱提
 て歩行するあへく大抵孩車に載せて行くあ
 り○又西洋人々世事謙退の風あへく仮令バ客
 の来る時も其客酒を欲まじ 與一欲せざせバ
 與一に最早なくさんあへく云へて敢て強ゆる
 あへく又客も遠慮するあへく欲まじレバ請

欲せざせバ 辞ま 仮令酒を飲とも爛酔に至る
 の風決してあへく又酒間へ歌舞するの風あへく酒
 宴ありて後へ琴胡弓の類を奏し或ハ踏舞を
 するあへく又酒間へ煙草吸ふあへく酒宴お
 じり或ハ別間へ至て吸煙す然まども坐中へ
 婦客はバヤグ其許を乞ふて後へ吸あり是西
 洋の婦人も吸煙せざるゆへ失禮ありし之等
 皆其國々の風儀ゆへ我國へ在ては無用の様

月外事 卷之三 三十五

あまもよく心得置き西洋人へ接する時ハ少
 しく斟酌せざり我國へてて失禮ありざるも
 彼の風よて失敬あり賤しみを受るありける
 づー○又西洋の風よて子生進む之を懐て寺院
 へ参詣し教師へ請て沐浴せしめ名を附るあり
 日本カヤヤウの宮詣しつひ神祠へ詣るが如し又人の婚
 姻するときは教師来て経文を誦み之を誠む是
 日本へあま風あり又人死する時を親族朋友を

集め教師を招き経文を誦讀し畢て寺内へ葬り
 其上へ墳墓を築く等の禮式と大抵日本と同じ
 但し此三事ハ必ず教師の媒人を得て禮式を
 する○又洋人の誕生を重むるあり死する甚だ
 く誕生日より親戚朋友を會し賀宴を開きて之
 と祝ふ殊に國王の誕辰より國中皆其業を休み
 上下互に相賀し或ハ祝炮を發し夜に到るが或
 ハ花火を揚げ或ハ小民巷街へ群集して相祝賀

もるあく日本にて

今上皇帝の御誕辰日（まへに）も戸々日の丸の旗を建
軒提燈をつけ上下一般相賀するが如く○西洋
にては士農工商の四民はとも上下貴賤の区
別嚴重ありて縉紳の士大夫とてとも國法を
犯さずのよしをば之と罰し取て貴賤の斟酌
ありあり又下民とて國王と同名あるも
妨けあり又縉紳家とてとも平生を從者と連

るありありとて獨歩（ひとり）或ハ乗車を用ひて下民
と異ありあり又國君とてとも錢貨を自
由（よ）とするの威權あり其賄料も官吏と同様一ヶ
年何程と議事院にて定むるもはあり尤其時の
事情によつて増減あり由ありとも通例の所と
左に擧ぐ

- 英吉利 百十五萬五千兩
- 佛蘭西 三百万兩

魯西亞 三百四十八万九千九百兩余
 普魯士 百四十万八千八百兩余
 和蘭 十二万〇百五十兩
 白耳義 三十三万二千二百兩
 伊太里 百九十五万兩
 是班牙 百〇四万五千五百兩
 瑞典 八十七万三千兩余
 丁抹 二十三万五千四百兩余

葡萄牙 二十四万八千六百兩余

右も全く國君一身の賄料にて此外大子王妃等
 も固より國王の親族ハ皆夫々の賄料を受取る
 ありあり

初巻よりあり略記するも此ハ皆世界一般
 一關一或ハ内外一般一關一所の風儀あり
 又一國夫々の風習ありものあり二編
 一國々々其政府事情より諸吏の給料

錢貨出納寺の事を記し猶初編に漏れるあり
と附録し出すべし

修身學 一人名之行之道

此書を著す婦女童子と導く人の人たる
道を行くも著せるありあり下
以て之を著すも著せるありあり下
ふくむ程人の本心をわきまに持て
をしりて是れ清早く出求むて以て道
と知りてせんや其美色は構え人自ら

明治第六年六月出版

文明開化 内外事情卷之三終



萬卷樓製本書目錄

古今 萬國綱鑑錄 全三冊
桓南塚本明毅 成齋重野安釋 閱

蒙訓 窮理問答 全六冊
東陽大槻誠之訓點 後藤達三編述

蒙訓 窮理問答外編 全四冊

出版書目 東洋



賴利屈斯的翁編輯

英國法律全書

全廿四冊

君德星先生譯

明治六年第三月出版

星亨君德纂輯

海外萬國偉績叢傳

全八冊

藤井伸直夫校正

壬申十月出版

蕉雨堂主人編纂

內外各種新聞要錄

全五冊

明治六年第百出版

富國新編

年編 日本外史

東江學人纂輯

文明開化 內外事情

全十冊

明治六年第廿月出版

齊藤政善編

勤辭篇

全五冊

明治六年第廿月出版

西村恒方譯

習字 萬國地理訓蒙

全二冊

明治六年第廿月求板

佐藤信景著
三毛證校

辨

全五冊

中村正直譯

共和政治

全六冊

明治六年十一月出版

阿曾沼恒齋譯
村上誠一郎校

窮理大全

全九冊

明治六年十一月出版

二橋貫一郎著書

童蒙習字本

全一冊

明治六年十一月出版

澁江保纂輯
山田脩校

米國史

全五冊

福井信重校

壬申九月出版

武藤重之同編
塚原靖

算海方針

全四冊

明治六年二月出版

謝海漁夫譯話

脩身學

全六冊

明治六年六月出版

阿瀨文彦譯

西洋養生論

全二冊

明治六年七月出版

出版書目

三二康生氏

白幡義篤著

國史字類

橫本

全一冊

辛未正月出版

白幡先生著

續國史字類

橫本

全一冊

明治六第六月出版

水野旭山校

日本外史便蒙

全三冊

田代義短譯

圖解 機械事始

全三冊

壬申十月出版

訓蒙 必讀 開知問答

明治六第六月出版

全三冊

越歷新編

大槻誠之解

訓蒙日本外史

活字板

明治六第十月出版

英學 童子教

宮本與鬼譯

全二冊

明治六第十月出版

瓊江河先生譯

世渡乃杖

一名 經濟便蒙 全四冊
壬申二月出版

瓊江河先生譯

政治略原

全四冊
辛未十月出版

瓊江河先生譯

米國律例

全四冊
壬申正月出版

瓊江河先生譯

賦稅要覽

全二冊
辛未十月出版

尚堂柿内信順藏板

市郡制法

附 町村役得條目 全四冊
明治六年三月出版

杉山安親譯

牧牛說

全三冊
明治六年五月出版

桂潭先生纂輯

名乘字引大成

橫本 全一冊
壬申十一月出版

增補
銅鑄

清 戒椿著
日本重野安繹閱

乘差筆記

全二冊
壬申七月出版

日本大槻東陽訓點

出版書目

東生

塚本桓甫明教選

筆算訓蒙

辛未正月出版

全五冊

何幸五先生編輯

英和對譯 書牘類例

明治六年二月出版

全一本

神奈川縣開板

英人スマイルス著

西國立志編

原名 自助論

全十一冊

日本中村敬太郎譯

辛未三月出版

英人ミル著

自由之理

全五冊

日本中村敬太郎譯

壬申八月出版

古今

萬國綱鑑錄和解

英人カラタマ氏著

英會話編讀本

全四冊

日本桂潭島一真譯

辛未正月出版

杉田玄瑞譯述

産科寶函

全一冊

明治六年五月出版

會計問答

古今圖書集成

東洋書局

山本正至

大槻東陽編輯

皇朝沿革圖解

辛未正月出版

全一帖

英人デイブリス著

英譯漢語

辛未五月出版

全三冊

日本中村敬太郎譯

川北朝鄰著

洋算發微

壬申五月出版

全二冊

伊達千廣翁著

大勢三轉考

明治六年八月出版

全三冊

山本正至譯

幾何學原礎

明治六年五月出版

全八冊

静岡算學社中選

筆算遺叢

明治六年六月出版

全二冊

郵松良肅著述

皇朝假名史略

明治六年九月出版

全六冊

青木東江編

讀本 訓蒙物名盡

明治六年九月出版

全一冊

發

行

京町堀上通三丁目	河内屋正助
西京姉小路上八町	菱屋孫兵衛
同 寺町本能寺前	錢屋惣四郎
同 東洞院上八町	村上勘兵衛
駿州静岡江川町	本屋市藏
濃州岐阜伊奈波町	三浦源助
長州	山城屋彦八
甲府八日町壹丁目	藤屋傳右衛門
和州添上郡奈良東町	高橋平三
越後長岡	鳥屋十郎
同	上田屋治兵衛
陸前仙臺國分町	菅原屋安兵衛

書

肆

會津若松	龍田屋萬助
加州金澤安江町	近岡屋太平
信州善光寺	小升屋喜太郎
上總水更津五兵衛	織本仙五郎
下總千葉町	織本仙五郎
會津若松大町	石津屋壽右衛門
熊ヶ谷本町	杉浦平右衛門
下總千葉町	大浦屋長藏
駿州沼津上土町	本屋浦吉
越後長岡	中村屋作平
信州諏訪	藤屋機右衛門
武州川越南町	岸田屋文吉

東 京 發

日本橋通壹丁目	同 通二丁目	同	芝 大神前	同	同	同	淺草茅町二丁目	横山町三丁目	小石川大門町	横山町壹丁目	大傳馬町壹丁目	室町三丁目
須原屋茂兵衛	山城屋佐兵衛	小林新兵衛	和泉屋市兵衛	和泉屋吉兵衛	岡田屋嘉	須原屋伊	和泉屋金右衛門	雁金屋清吉	出雲寺萬次郎	三家村佐平	紀伊國屋源兵衛	

行 書 肆

外神田昌平橋通	通 油 町	馬喰町二丁目	同	兩國吉川町	蠟 壳 町	日本橋通三丁目	南傳馬町壹丁目	本石町二丁目	室町二丁目	今川橋福田町	大傳馬町三丁目
島屋平七	藤岡屋慶次郎	森屋治兵衛	山口屋藤兵衛	大黒屋平吉	若 林喜兵衛	長門屋龜七	近江屋半七	梶屋喜兵衛	大坂屋藤助	近江屋岩次郎	袋屋龜次郎板

